秋田魁新報　2026年10月12日付　県北

「廃線印」や「鉄道鍋」販売

小坂町

まつり 協力隊員３人が開発

旧小坂鉄道の線路や設備を活用した小坂町の「小坂鉄道レールパーク」で11日、恒例の鉄道まつりが始まった。今回は、町地域おこし協力隊の3人がそれぞれ開発した鉄道のグッズやグルメを販売。ガイド付きの園内ツアーやレールバイクの体験なども行われ、多くの鉄道ファンや家族連れが楽しんだ。12日まで。

「小坂鉄道特命駅員」として活動する協力隊の高橋紀之さんは、小坂鉄道の「廃線印」を企画（1枚300円）。御朱印風の記念印で、かつて旅客輸送に使われ、今年6月に修復、公開された車両「キハ2101」をデザインしている。キハ2101のペンケース（1500円）もレールパークと共同で開発した。

町の近代化産業遺産の活用に取り組む田代俊之さんは、昔スペインの鉱山鉄道で使われていた円筒形の鍋「鉄道鍋」で同国のスープ「ソパ・デ・アホ」を調理し販売（1杯500円）。ニンニクや町内産の豚肉が使われ、来場者は興味深そうに味わっていた。「文化財保存・調査員」を務める伊藤優さんは、鉱山内を走っていた頃の小坂鉄道の写真をパネルで展示している。

高橋さんは「3人による初の企画。レールパークのことを知ってもらい、来場者の増加につなげたい」と話した。

12日は午前9時～午後5時（最終入園は4時半）。入園料は高校生以上600円、小中学生300円、未就学児無料。レールバイクや観光トロッコは別料金。（本多恒顕）



協力隊の高橋さんが企画し販売している廃線印

3連休の中日となった11日、県北各地では多彩なイベントが開かれ、大勢の来場者でにぎわった。

地域の魅力を味わう

3連休 きょうまで催し多彩

産業フェア

能代市の産品を集めた「のしろ産業フェア2026」と、特産のネギをPRする「白神ねぎまつり」が11日、同市の能代山本スポーツリゾートセンター・アリナスで始まった。屋内外に40を超えるブースが並び、家族連れなどが地域の魅力を堪能した。12日まで。

産業フェア（実行委員会主催）は飲食、衣料、木材加工など幅広い業種のブースが並び、商品の販売やワークショップを実施。特設ステージでは市内5団体による民俗芸能連合会の合同発表会などが行われた。

11日は能代松陽高校情報ビジネス科の生徒も出店。地元企業と開発したスイーツや冷凍ギョーザなどを販売した。

県産サツマイモのタルトを手がけた大塚柊真さん（3年）は「おしゃれで、多くの人に買ってもらえるよう意識して作った。おいしさには自信がある」と語った。コロネパンの商品化に携わった川村悠晴さん（同）は「秋田の魅力が伝わるよう試行錯誤した。売れ行きも良くてうれしい」と話した。

白神ねぎまつり

能代市

白神ねぎまつり（JAあきた白神など主催）では、炭火焼きのネギを提供する恒例の「千本焼き」が行われ、多くの人が焼きたての味を楽しんでいた。

12日は午前9時半～後3時。じゃんけん大会などが行われる。（今井正一）



市内の高校生も参加したのしろ産業フェア



白神ねぎまつりでは焼きたてのネギが振る舞われた

ⓒ秋田魁新報社